

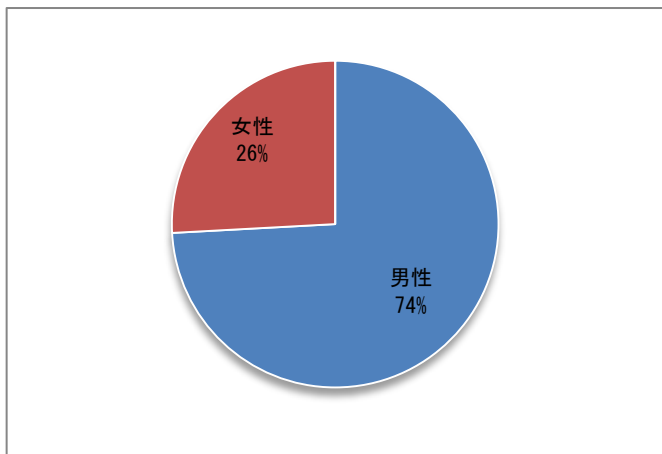
# JAXA タウンミーティング in 北海道 開催報告

平成 30 年 2 月 3 日、JAXA タウンミーティング in 北海道 ～北海道 150 年 赤れんがから宇宙を考える～ を開催しました。今回は、JAXA が取り組んでいる宇宙ビジネスや有人宇宙技術について話題を提供し、会場の参加者と活発な意見交換がなされました。

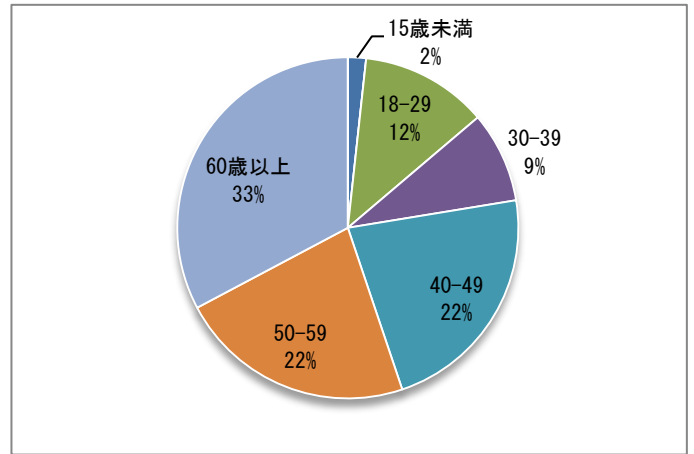
- 開催日時 平成 30 年 2 月 3 日（土） 13:30～16:00
- 会場 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）2 階 1 号会議室
- 参加者数 74 名
- 登壇者
  - ・ JAXA 新事業促進部 新事業課長 杉田 尚子  
話題：「宇宙を使ってビジネスしてみませんか？」
  - ・ JAXA 有人宇宙技術部門 HTV 技術センター 技術領域主幹  
HTV フライトディレクタ 麻生 大  
話題：「宇宙ステーション補給機 HTV  
～宇宙飛行士の衣食住と研究を支える宇宙宅配便～」
- 進行コーディネーター
  - ・ JAXA 広報部 参事 原田 克己

## アンケート回答者の属性（有効回答数：58）

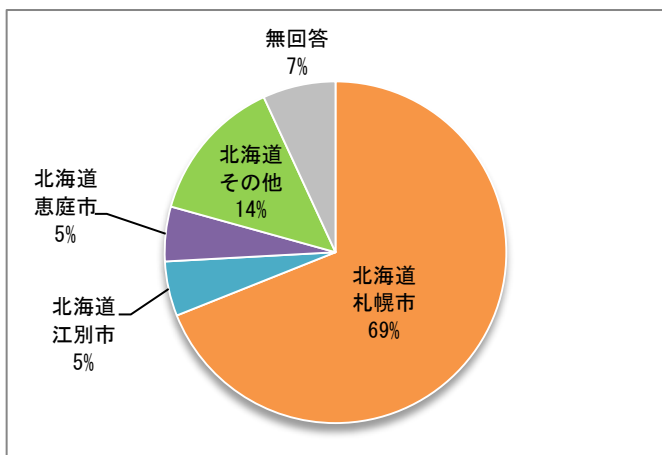
### 1. 性別



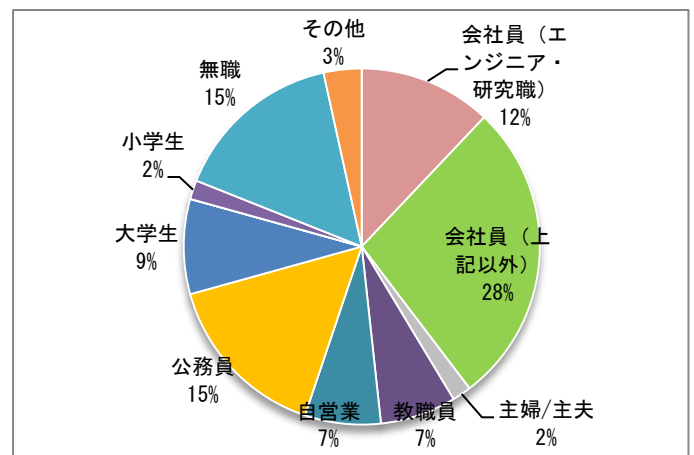
### 2. 年齢



### 3. 居住地



### 4. 職業



## いただいた主なご意見（意見投稿、アンケート記入分も含む）

### ■今回のタウンミーティングの話題に関連して

#### ◇宇宙を使ってビジネスしてみませんか？

- ・ 宇宙産業へ参加する構想はあるものの資金や技術力に不安があるので、そこをつなげる体制をもっと一元化してほしい。
- ・ 現在のビジネス黎明期から、成熟期になり、ロケット打ち上げや人工衛星が増加した場合、その所有や管理などセキュリティについてどうなるのか関心がある。
- ・ JAXA の蓄積技術をもっと民間へ開示すべき。
- ・ ビッグデータ活用のみならず、多くのビジネスへの活用が考えられると思いました。
- ・ 民間企業が参入しやすいような環境構築に積極的に取り組んでもらいたい。中小企業は自分達の持つリソースがどのように宇宙ビジネスに繋がるかイメージできない部分があると思うので、その辺りに具体性を持たせてアピールしていただきたい。
- ・ 将来への投資を続けてください。
- ・ 種子島で宇宙留学というのをやっているが、北海道の大樹町でもやってみてはどうかと思う。
- ・ 北海道の事業と宇宙を結び付ける。例えばザンギ、スープカレー、乳製品で宇宙でグルメするなど。
- ・ アイディアだけの提供や技術だけの提供など、民間との接点がたくさんあればいいと思う。
- ・ 他分野を引き込み、プレーヤーの幅を広げることに期待します。
- ・ とても面白かったですが、他国に比べ宇宙は遠いと感じざるをえないと思いました。今ある事例より身近な例（将来的にこんなことができます）というようなお話をもっと聞きたいです。
- ・ 10 年後 100 年後にどのようなビジョンを描いているのか、具体的に示すことができれば、より多くの人々の理解が得られると思います。
- ・ 現在スタートしている民間ベンチャーが持続できるようサポートしてほしい。
- ・ デブリ除去技術の確立を事業化し、民間へ受け継いでほしい。
- ・ IOT や ICT の広がりによって地球規模でのデータ活用が拡大するので、今まで以上に人工衛星のデータ利用が大切になっていくと思う。
- ・ ISS での宇宙医学（栄養学）の研究結果を一般公開（セミナー）してほしい。
- ・ 宇宙食はビジネス（地域産業）になりそう。道産食材を使った宇宙食ができると良いですね。

#### ◇宇宙ステーション補給機 HTV ～宇宙飛行士の衣食住と研究を支える宇宙宅配便～

- ・ HTV の先進性が理解できた。これからも、地味だが重要なミッションを確実に実施しつつ、新規技術の研究を進めてほしい。
- ・ 地上生活に活用できるものがあれば、企業化は可能であると思う。
- ・ こうのとりに北海道の食材を積んでほしい。
- ・ 場所が宇宙開発になっただけで、人間である以上衣食住が付きまとう事実それ自体がキャッチーで面白かったです。とはいえ、補給の話に加え、より現実的な今の宇宙の暮らしなどを広く知れたら、より幅のある層に向けて興味認知を拡大できるのではと思いました。
- ・ 宇宙飛行士が望むこと、必要とすることをとにかく考えて開発していくことを継続するのが大切だと考

えます。

- ・ステーションの中での自給自足が技術的に可能になってほしい。
- ・費用がかかりますので、国際的な連携や役割分担がますます大切になると思います。また、AI の活用等で費用対効果を高める余地が大きいと思います。
- ・現在地域で宇宙食の開発を進めています。宇宙食以外で宇宙飛行士が求めていることは何なのでしょう。それを民間で開発できたらと思います。

## ■タウンミーティング、その他について

- ・JAXA の情報発信が劣化しているのではないかと懸念している。例えば、HP で中期計画の変更について、第 2 期中期計画までは変更理由が記載されているのに、第 3 期では変更理由が記載されていない。  
⇒記載対応いたしました。ご意見いただきありがとうございました。  
([http://www.jaxa.jp/about/plan/index\\_j.html](http://www.jaxa.jp/about/plan/index_j.html))
- ・参加者が技術開発などで貢献できるような話をより聞けると身になると思います。
- ・日本宇宙食について、基準を満たすように努力して認定を受けたとしても採算がとれず、その後の販売が難しい。例えば筑波宇宙センターなどの食堂で日本宇宙食を食べられるようにしてはどうか。ミュージアムショップで販売されている認定をうけていない宇宙食との差別化も図れ、開発者のモチベーションになり、また利用者としても良い体験ができる。
- ・もっと色々なところで活動内容を宣伝してほしいです。実際には身近なところでいっぱい関わり合いがあり、一部の興味のある方たちしか JAXA の活動を知らないような気がします。社内でタウンミーティングの話を出したのですが、難しい話でしょと話が終わりました。
- ・これからも積極的にタウンミーティングを開いてほしいです。
- ・北海道での講演をもっと多くやってほしい。
- ・過去のタウンミーティングで得られたものから実現したものなどがあれば知りたかった。
- ・もっとわかりやすく、市民のレベルまで落とし込んだイベントが必要だと思います。(JAXA に興味を持っている人以外にもその取組を伝えるため)
- ・皆さんが仕事をするうえでのやりがいや解決したい社会課題など、個人のお話をうかがう機会が欲しいです。キャリア教育の視点から学びたいと思います。
- ・北海道×宇宙の可能性をサポートしてください。
- ・小～高校生など教育分野においても JAXA の意義を広く知らせてほしい。
- ・深い知識を持った参加者がいるのに驚きました。
- ・地域特性限定したミーティングもよいと思います。
- ・話の内容によって、JAXA の PR、教育、産業振興とも分けて実施すればもっと中身の濃いミーティングになると思います。

